
白銀のそら

暁 黎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白銀のそら

【Nコード】

N46770

【作者名】

暁 黎

【あらすじ】

とある少女が召喚される話です。

放置されていたので勿体無いかなくと思い投稿。短編にしては短いかも。

(前書き)

拙いものですがどうぞ。
連載になるかもな小説です。

みんな一度は思ったことがあるのではないだろうか。

女性は男になりたい。男に生まれたかった。

男性は女の方が良かった。女に生まれたかった。

このように思うのは当然だろう。どちらの性別にも利点と失点があるのだから。

しかし、あえて言わせてもらいたい！それは本当にならないから言えることで、実際性転換なんてことが起きたら少なからず絶望する。

そう！

今まさに私の状況だ！

などと世間の皆様に愚痴を言いつつ現実逃避をしている。

「おいっ
」

まだ逃避していたいが状況が許してくれないようだ。

ここで私もいつまでも、このままではいけないと思い辺りを見て自身の変化を確かめてみる。

私がいるのはホールのような広い部屋だ。その角に武装した人達がいる。

そして前にこの中の代表と思える人が二人。

二人ともかなりの実力がある。 何故そう思うか分からないけど。

よし、周りの状況はこんなところだろう。

. あとは自身の变化なんだけど、多分いや絶対につきさつきまで使っていた女性の肉体ではない。

長い髪なのだろう。白銀の髪が下を向くと肩に流れ落ちてくる。もしかしたら腰より長いかもしれない。

次に体なんだけど、女性にあるはずのものが無い。だからと言って男になったのかと言えば違う。どちらの性別か判断できるものがないのだ。

可能性としては無性だろう。

どこかの漫画か何かで両性の人は何かの気持ちの高ぶりで性別が出たりしていたからな。

ここまでで分かったことはこれは私の体ではない。

でも何故か今まで生きてきた自分の体よりこの体の方が違和感が無かった。

私によく馴染んでいる感じがする。

つらつらと考えていると目の前にいる男が痺れを切らしたのかこち

らに近づき手を伸ばしてきた。知らない男にいきなり手を伸ばされて来ていると実感したとたん私の中で拒否反応と言って良いほどの思いが湧き上がった。

「……………触れるな」

その思いが駆け巡った瞬間私はそう言っていた。その言葉に反応したように私の中の力が出たのが解った。

男がもう少しで触れると言ったところで私を中心に突風が吹きその男を吹き飛ばした。

「！デイレス！！」

ドンツと音とともに男は壁にぶつかった。いや、ぶつけられた言っただけがいいのか……………私によって。

……………そう実感したとたん何もかも怖かった。

自分が放った力もその力を説明されなくとも自分の力だと認識している自分も、そして自分の周りにいる奴らも。何もかもが怖かった、恐ろしかった。

多分この時の私は壊れかけていたんだと思う。意味も解らずいきなり変わりすぎたすべにによって、私の心が悲鳴を上げていたんだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4677o/>

白銀のそら

2010年10月23日17時46分発行